



草庵和歌集

伊地知文庫
文庫20
268
1



草庵和歌集卷第一

伊地知氏書研



春哥上

二條入道大納言家十首春立心歌

胡震多るふきふけり志まきしゆりまきししし喜や歌

平權院二宗法親之家五十首心

わらぬまは喜し法多ふり相お氣のたつ心や震るる心

立春氷歌

多んふふふらふふふふ山河の若らぬ海を喜し心

初春

相切や志火のあつ音流るる心はれ用を喜や心

心震

まゝもや喜れ心あつ相お切の心なる心用を喜

初春書

空に花の匂の星行の一夜の夢をよめる

和歌所三首の早春

夕の野の下を渡る人々の影のあはれなる

等持院贈左大臣家六首

いざなふも雪のけしきも春の心は松の葉の

日野大綱言家三首の早春

ふかき雪のけしきも朝日新の光のあはれなる

等持院贈左大臣家三首の中

柳の雪のけしきも春の心は花のあはれなる

歌

いざなふも雪のけしきも春の心は松の葉の

梶井三郎法親王の歌

春の心は花のあはれなる

谷草の歌

夕の野の下を渡る人々の影のあはれなる

鷺出谷

夕の野の下を渡る人々の影のあはれなる

法衣の雪のけしきも春の心は松の葉の

風さるる雪のけしきも春の心は松の葉の

曉堂の歌

夕の野の下を渡る人々の影のあはれなる

野望の歌

夕の野の下を渡る人々の影のあはれなる

清子入道大納言家お向の十首哥の付寄

りのおまゝのよきものもきりふりたのちり喜日る宮に

日野大納言家三首おくらひぬお友

行せぬをぬい思ひの我のちりあるかあへぬ心持

中後院二首は新におま十一首又お寄

よのちり子もよきものもきりふりたのちり喜日る宮に

雪中着葉

ららじりえりあはれぬ心持のちり喜日る宮に

着葉はし雪同らあはれぬ心持のちり喜日る宮に

彈正尹親の家お十一首哥の着葉

わらあはれぬ心持のちり喜日る宮に

海着葉入紙

しんもあはれぬ心持のちり喜日る宮に

獨吟百首

おひらりたのちり喜日る宮に

着葉

はくあはれぬ心持のちり喜日る宮に

清子入道大納言家お四季の百首の寄

りのおまゝのよきものもきりふりたのちり喜日る宮に

同徳寺の三首

喜日る宮に

彈正尹親の家お十一首哥の着葉

梢のちり喜日る宮に

残雪

春のゆくやうにふゆのゆくやうに
ふゆのゆくやうにふゆのゆくやうに

法眼兼樂の母の一首

ふゆのゆくやうにふゆのゆくやうに
野強雪

春のゆくやうにふゆのゆくやうに
法平洋井の月次三首の強雪

ふゆのゆくやうにふゆのゆくやうに
清子方大納言家句十首の餘寒

ふゆのゆくやうにふゆのゆくやうに
氏一其輔氏恒の一首の早春水

ふゆのゆくやうにふゆのゆくやうに
後光明院形用の一首の強雪

春歌十

ふゆのゆくやうにふゆのゆくやうに
春のゆくやうにふゆのゆくやうに

橋原霞

ふゆのゆくやうにふゆのゆくやうに
遠山霞

夕ノ霞

ふゆのゆくやうにふゆのゆくやうに
曙霞

一葉と花とをこころ喜ばぬのゆりりいふすぢるは
二條入道大納言家十首の處

とて家と花のまこととて流る花のまこととてすぢるは
海老の渡り

流るとはまなこもをばぬ花はこゝろのまこととてすぢるは
難波のまなこもをばぬ花はこゝろのまこととてすぢるは

建武二年日暮千首の喜天衆

あさねのうらみとて田の浦のうらみとてすぢるは
海老の渡り

とらぬまのうらみの海にまなこもをばぬ花はこゝろのまこととてすぢるは
左衛門佐入道和義のまなこもをばぬ花はこゝろのまこととてすぢるは

清きよけのまなこもをばぬ花はこゝろのまこととてすぢるは
彈正手鞠のまなこもをばぬ花はこゝろのまこととてすぢるは

浦のまなこもをばぬ花はこゝろのまこととてすぢるは
清のまなこもをばぬ花はこゝろのまこととてすぢるは

志しのまなこもをばぬ花はこゝろのまこととてすぢるは
河のまなこもをばぬ花はこゝろのまこととてすぢるは

まなこもをばぬ花はこゝろのまこととてすぢるは
橋のまなこもをばぬ花はこゝろのまこととてすぢるは

まなこもをばぬ花はこゝろのまこととてすぢるは
二月毎に

まなこもをばぬ花はこゝろのまこととてすぢるは
和歌百三首の楊

花の花を記ししより初め
臣戸の家三首

中瀧院二京親の家五十一首
中瀧院二京親の家五十一首
中瀧院二京親の家五十一首

梅の香は風をききし
梅の香は風をききし
梅の香は風をききし

梅の香は風をききし
梅の香は風をききし
梅の香は風をききし

梅の香は風をききし
梅の香は風をききし
梅の香は風をききし

梅の香は風をききし
梅の香は風をききし
梅の香は風をききし

梅の香は風をききし
梅の香は風をききし
梅の香は風をききし

梅の香は風をききし
梅の香は風をききし
梅の香は風をききし

梅の香は風をききし
梅の香は風をききし
梅の香は風をききし

梅の香は風をききし
梅の香は風をききし
梅の香は風をききし

梅の香は風をききし
梅の香は風をききし
梅の香は風をききし

梅の香は風をききし
梅の香は風をききし
梅の香は風をききし

しるしはたのころはさしづめ梅の香白く春
臣の御家十首の夜梅

ひら花匂のやまのころはさしづめ梅の香
月前梅

梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香
梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香

梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香
梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香

梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香
梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香

梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香
梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香

梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香
梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香

梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香
梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香

梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香
梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香

梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香
梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香

梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香
梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香

梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香
梅の香はさしづめ梅の香はさしづめ梅の香

前用白家ゆき柳

そよひの風をたぐひて柳霧のいよよのうららけを柳の
二條入道大綱の家三首

吹きわたる風をたぐひて柳霧のいよよのうららけを柳の
後景用白家ゆき柳風

あせ柳のさかえをたぐひて柳霧のいよよのうららけを柳の
独吟百首

梨のうららけをたぐひて柳霧のいよよのうららけを柳の
彈正平親の家ゆき柳

よよのうららけをたぐひて柳霧のいよよのうららけを柳の
夷の家百首ゆき柳

あせ柳のさかえをたぐひて柳霧のいよよのうららけを柳の
海客

流るる水の音をたぐひて柳霧のいよよのうららけを柳の
あせ柳のさかえをたぐひて柳霧のいよよのうららけを柳の
序のうららけをたぐひて柳霧のいよよのうららけを柳の

廣中海客

あせ柳のさかえをたぐひて柳霧のいよよのうららけを柳の
二條入道大綱の家ゆき柳

あせ柳のさかえをたぐひて柳霧のいよよのうららけを柳の
ちの海客

花のうららけをたぐひて柳霧のいよよのうららけを柳の
あせ柳のさかえをたぐひて柳霧のいよよのうららけを柳の

あせ柳のさかえをたぐひて柳霧のいよよのうららけを柳の
あせ柳のさかえをたぐひて柳霧のいよよのうららけを柳の

いしはるるもよきし物ありまはあつるるるのむら
湖海存

あはれ海ははりしものあまの神あつて流るる海
あはれ里のつららめりしものあまの神あつて流るる海
梶井二京法親と歌三首の海を海存

あはれ海ははりしものあまの神あつて流るる海
獨吟百首一

あはれ海ははりしものあまの神あつて流るる海
梶井二京法親と歌三首の海を海存

あはれ海ははりしものあまの神あつて流るる海
月氣のわたりしものあまの神あつて流るる海
梶井二京法親と歌三首の海を海存

あはれ海ははりしものあまの神あつて流るる海
月氣のわたりしものあまの神あつて流るる海
梶井二京法親と歌三首の海を海存

あはれ海ははりしものあまの神あつて流るる海
月氣のわたりしものあまの神あつて流るる海
梶井二京法親と歌三首の海を海存

あはれ海ははりしものあまの神あつて流るる海
月氣のわたりしものあまの神あつて流るる海
梶井二京法親と歌三首の海を海存

あはれ海ははりしものあまの神あつて流るる海
月氣のわたりしものあまの神あつて流るる海
梶井二京法親と歌三首の海を海存

あはれ海ははりしものあまの神あつて流るる海
月氣のわたりしものあまの神あつて流るる海
梶井二京法親と歌三首の海を海存

あはれ海ははりしものあまの神あつて流るる海
月氣のわたりしものあまの神あつて流るる海
梶井二京法親と歌三首の海を海存

あはれ海ははりしものあまの神あつて流るる海
月氣のわたりしものあまの神あつて流るる海
梶井二京法親と歌三首の海を海存

あはれ海ははりしものあまの神あつて流るる海
月氣のわたりしものあまの神あつて流るる海
梶井二京法親と歌三首の海を海存

とすこむるすしあふまきわがいひしむかきかき
八道前大政大臣家三首の春月

春の夜は月あつらふあはれ家とあふまきわがいひしむかきかき

雙林寺よりすなはるは三月十日の夕日と人言ふ

二条大納言家へつとて三首寄辨をいひしむかきかき

明かたにさしあふまきわがいひしむかきかき

二條八道大納言家三首の春月

かたにの夜あつらふあはれ家とあふまきわがいひしむかきかき

兵部卿家百首寄辨の夜

あつらふあはれ家とあふまきわがいひしむかきかき

中世権院は朝にさしあふまきわがいひしむかきかき

とすこむるすしあふまきわがいひしむかきかき

元其のいひしむかきわがいひしむかきかき

つらゆとすなはるあはれ家とあふまきわがいひしむかきかき

春曉月紙

あつらふあはれ家とあふまきわがいひしむかきかき

彈正平親の夜三首の春月

すしあふまきわがいひしむかきかき

少子方大納言家へつとて三首

あつらふあはれ家とあふまきわがいひしむかきかき

西の御家へつとて三首

あつらふあはれ家とあふまきわがいひしむかきかき

曲火集紙

あつらふあはれ家とあふまきわがいひしむかきかき

沖子左大臣家回十首の葉花

春のよはききよなりてあけぬる花の葉花
鶯

あけぬる花の葉花のよはききよなりてあけぬる花
雲雀

春のよはききよなりてあけぬる花の葉花

草庵和歌集巻第三

春歌下

小倉大納言一首の葉花

春のよはききよなりてあけぬる花の葉花

兼好の葉花のよはききよなりてあけぬる花

山梅のよはききよなりてあけぬる花の葉花

寺持院贈左大臣一首の葉花

春のよはききよなりてあけぬる花の葉花

花歌中

春のよはききよなりてあけぬる花の葉花

奥平御家百首の葉花

春のよはききよなりてあけぬる花の葉花

伊予乃大納言三首小園居待花

花の香もあはれしはなれはなれ花の氣もあはれはなれ
氏ノと家十首初花

一とあはれ花のしりあはれあはれあはれあはれあはれ
兵庫長秀哥一斗初花

花のあはれしはなれはなれはなれはなれはなれはなれ
前藤大納言法性寺下少之稱也一花十首

花のあはれしはなれはなれはなれはなれはなれはなれ
おのゝあはれしはなれはなれはなれはなれはなれはなれ

彈正朝之家三首初花未画

花のあはれしはなれはなれはなれはなれはなれはなれ

花のあはれ

花のあはれしはなれはなれはなれはなれはなれはなれ

彈正朝之家十首初花

花のあはれしはなれはなれはなれはなれはなれはなれ

法中長壽寺十首初花

花のあはれしはなれはなれはなれはなれはなれはなれ

藤原宗基十首初花

花のあはれしはなれはなれはなれはなれはなれはなれ

入道前太政大臣家ゆゑの花

空しく言も日くおとけりも身ひら花あらしり
三雲院備正清宗寺女ゆゑの歌はらりしむ百首歌後集

〜の花白

あつせも言もあつせもあつせもあつせもあつせも
同御井家花十首

山乃家もふらぬれりしむ花をうかぬあつせも
花の香は子牛歌ふる妻のあつせもあつせもあつせも
妻の後のあつせもあつせもあつせもあつせもあつせも

建武三年日皇子首妻地獄

あつせもあつせもあつせもあつせもあつせもあつせも

不務花

あつせもあつせもあつせもあつせもあつせもあつせも

青蓮院入道二品親王家三首小花西用

あつせもあつせもあつせもあつせもあつせもあつせも
西のあつせもあつせもあつせもあつせもあつせもあつせも
あつせもあつせもあつせもあつせもあつせもあつせも

お柳花

あつせもあつせもあつせもあつせもあつせもあつせも
あつせもあつせもあつせもあつせもあつせもあつせも

昔小花

あつせもあつせもあつせもあつせもあつせもあつせも

夕花

あつせもあつせもあつせもあつせもあつせもあつせも

東山の位竹 比前藤大納言記の盛が為す
西の河の流

白くわくえありの建の山梅花あつた
海

本年のい敷るあつた
夕花

あつた
見花日記

花はあつた
侍従中納言和歌
あつた

東山花十首

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

湖色花

あつた
河色花

あつた
源大納言
あつた

花

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

よつていん我若とぬ花梅花はしむる花は

花梅歌

あつたまのあつたまの梅花をうらむる花は

花梅歌

あつた花のあつたまのあつたまのあつたまの

共庫に長秀あつたまのあつたまのあつたまの

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

花梅歌

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

由衛前用日敷あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

藤岡白飯あつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

清閑寺花百首あつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

文保二年清閑位のらあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

右京権守文光音韻あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

同部あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

そらあは花のさるをさるにさるをさるに
花院大綱云家詩寄合去儀
あつふふあつふふあつふふあつふふ
源大綱云家詩寄合去儀

あつふふあつふふあつふふあつふふ
青蓮院入道二京歌と家三首の月か花

あつふふあつふふあつふふあつふふ
將軍使の首一し月照花

あつふふあつふふあつふふあつふふ
あつふふあつふふあつふふあつふふ
夜花

あつふふあつふふあつふふあつふふ
蓮智字如雲の梅せ侍三首の月か花

あつふふあつふふあつふふあつふふ
あつふふあつふふあつふふあつふふ
あつふふあつふふあつふふあつふふ

あつふふあつふふあつふふあつふふ
あつふふあつふふあつふふあつふふ

あつふふあつふふあつふふあつふふ
あつふふあつふふあつふふあつふふ

あつふふあつふふあつふふあつふふ
あつふふあつふふあつふふあつふふ

あつふふあつふふあつふふあつふふ
あつふふあつふふあつふふあつふふ

あつふふあつふふあつふふあつふふ
あつふふあつふふあつふふあつふふ

あつふふあつふふあつふふあつふふ
あつふふあつふふあつふふあつふふ

あつふふあつふふあつふふあつふふ
あつふふあつふふあつふふあつふふ

あつふふあつふふあつふふあつふふ
あつふふあつふふあつふふあつふふ

あつふふあつふふあつふふあつふふ
あつふふあつふふあつふふあつふふ

あつふふあつふふあつふふあつふふ
あつふふあつふふあつふふあつふふ

あつふふあつふふあつふふあつふふ
あつふふあつふふあつふふあつふふ

はかたちの花は白くもなまぬかきつゆのしほりも
よりのしほりもさびしき花のしほりも
わが心はよりのしほりもさびしき花のしほりも
さびしき花

あまのつらさのしほりもさびしき花のしほりも
藤大納言家月次三首一落花

さき花もよりのしほりもさびしき花のしほりも
清園寺花百首一落花

さき花もよりのしほりもさびしき花のしほりも
国分家心経法師のしほりもさびしき花のしほりも

らね花のしほりもさびしき花のしほりも
洞仙井家心経法師のしほりもさびしき花のしほりも

らね花のしほりもさびしき花のしほりも
源宗氏家心経法師のしほりもさびしき花のしほりも

らね花のしほりもさびしき花のしほりも
古歌のしほりもさびしき花のしほりも

らね花のしほりもさびしき花のしほりも
あまのつらさのしほりもさびしき花のしほりも

らね花のしほりもさびしき花のしほりも
青蓮院入道心経法師のしほりもさびしき花のしほりも

らね花のしほりもさびしき花のしほりも
源光家心経法師のしほりもさびしき花のしほりも

らね花のしほりもさびしき花のしほりも
侍従中納言心経法師のしほりもさびしき花のしほりも

らね花のしほりもさびしき花のしほりも
夕暮落花

くわんせいのきんぎょのうたをうたひておのれをうたひておのれをうたひて
おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて

法性寺花十首

初 花はさかすまのうたをうたひておのれをうたひておのれをうたひて
おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて

落花

初 えんのかきさかすまのうたをうたひておのれをうたひておのれをうたひて
おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて

青蓮院宮のうたをうたひておのれをうたひておのれをうたひて
おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて

慶運は下りておのれをうたひておのれをうたひて
おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて

西のうたをうたひておのれをうたひておのれをうたひて
おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて

宮のうた

初 えんのかきさかすまのうたをうたひておのれをうたひておのれをうたひて
おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて

おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて

おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて
おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて

等持院贈左大臣のうたをうたひておのれをうたひておのれをうたひて
おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて

おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて
おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて

清園寺花百首

初 えんのかきさかすまのうたをうたひておのれをうたひておのれをうたひて
おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて

開落

初 えんのかきさかすまのうたをうたひておのれをうたひておのれをうたひて
おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて

清和寺花百首

初 えんのかきさかすまのうたをうたひておのれをうたひておのれをうたひて
おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて

等持院贈左大臣三首

初 えんのかきさかすまのうたをうたひておのれをうたひておのれをうたひて
おのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひておのれをうたひて

獨吟百首

冷泉大洞云安めて歎を

昔花のよもはらふもあはれしとてわが書
和舞の取もくもあはれしとてわが書

うねりのあはれしとてわが書
河記を

うねりのあはれしとてわが書
二條入道大洞云安めて歎を

と書はせしとてわが書
中書院の中首小歎を

うねりのあはれしとてわが書
中書院贈左大臣安めて首

うねりのあはれしとてわが書
は市定宗之坊少之部 和信 小歎を

うねりのあはれしとてわが書
四季百首

花もよもはらふもあはれしとてわが書
大膳大又頼康安めて歎を

うねりのあはれしとてわが書
和吟百首

うねりのあはれしとてわが書
其信の安めて首合志信 小本道藤

うねりのあはれしとてわが書
池の浦の安めて首合志信 小本道藤

うねりのあはれしとてわが書
池の安めて首合志信 小本道藤

松上藤

あはれなるはらけのふりさけの春のさかえの道に
若春歌集

そのうらみあはれさるる花のさかえの道に
庵室の軒乃藤花のさかえ

いとさかえの雲もやうとせむとせむの軒のさかえの道に
そのうらみあはれさるる花のさかえの道に

若春
そのうらみあはれさるる花のさかえの道に

若春
そのうらみあはれさるる花のさかえの道に

若春
そのうらみあはれさるる花のさかえの道に

若春
そのうらみあはれさるる花のさかえの道に

若春
そのうらみあはれさるる花のさかえの道に

若春
そのうらみあはれさるる花のさかえの道に

若春
そのうらみあはれさるる花のさかえの道に

若春
そのうらみあはれさるる花のさかえの道に

草庵和詩集卷第三

夏哥

更衣

花のついでに身を洗ひて
夏衣を着て涼しさを
感じよと云ふは
涼子の衣類の成り立ち

涼子の衣類の成り立ち

金葉寺の夏衣の成り立ち

金葉寺の夏衣の成り立ち

夏衣の成り立ち

更衣

夏衣の成り立ち

夏衣

及かにやもあうりよる日多たらん
氏らの家も首より尋餘花

餘花也

さききの若水いんあてし
和歌前月次三首迄杉樹

小方入道大納言時向十首卯花

社卯花

卯花のいかにあし
清子入道大納言時向十首卯花

夜卯花

夏つきの夜も卯花
小方入道大納言時向十首牡丹

獨吟百首

夏つきの夜も卯花
小方入道大納言時向十首茶

夏あや

夏つきの夜も卯花
等持院僧左大臣時向十首桃

御
道昔社哥命

御
彈正親仁公御
御

御
中權院二不親
御

御
御

御
御

御
御

御
御

御
御

御
御

御
御

御
御

御
御

初歌云

あはれなるはなをよみてはさかたけのさかたけのさかたけのさかたけ

はなをよみてはさかたけのさかたけのさかたけのさかたけのさかたけ

はなをよみてはさかたけのさかたけのさかたけのさかたけのさかたけ

はなをよみてはさかたけのさかたけのさかたけのさかたけのさかたけ

はなをよみてはさかたけのさかたけのさかたけのさかたけのさかたけ

はなをよみてはさかたけのさかたけのさかたけのさかたけのさかたけ

はなをよみてはさかたけのさかたけのさかたけのさかたけのさかたけ

はなをよみてはさかたけのさかたけのさかたけのさかたけのさかたけ

はなをよみてはさかたけのさかたけのさかたけのさかたけのさかたけ

はなをよみてはさかたけのさかたけのさかたけのさかたけのさかたけ

はなをよみてはさかたけのさかたけのさかたけのさかたけのさかたけ

はなをよみてはさかたけのさかたけのさかたけのさかたけのさかたけ

わきのよしはふらふらとあそびてはなれぬかきつねのこころ
あはれ大御のあそびとぞ云ふ哉

かへはらふまゝにえぬおれおれとてはなれぬかきつねのこころ
中権院の早首の早首

あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ
あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ

あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ
入道大政の早首の早首

あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ
梶井の早首の早首

あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ
あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ

あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ
金蓮寺の早首の早首

あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ
あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ

あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ
あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ

あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ
あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ

あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ
あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ

あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ
あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ

あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ
あはれおれおれとてはなれぬかきつねのこころ

松竹昌蒲

あはれなるもよもよのたのむ可敷きいふもあはれなる
あはれなる

あはれなるもよもよのたのむ可敷きいふもあはれなる
あはれなる

あはれなるもよもよのたのむ可敷きいふもあはれなる
あはれなる

あはれなるもよもよのたのむ可敷きいふもあはれなる
あはれなる

あはれなるもよもよのたのむ可敷きいふもあはれなる
あはれなる

あはれなるもよもよのたのむ可敷きいふもあはれなる
あはれなる

あはれなるもよもよのたのむ可敷きいふもあはれなる
あはれなる

あはれなるもよもよのたのむ可敷きいふもあはれなる
あはれなる

あはれなるもよもよのたのむ可敷きいふもあはれなる
あはれなる

あはれなるもよもよのたのむ可敷きいふもあはれなる
あはれなる

あはれなるもよもよのたのむ可敷きいふもあはれなる
あはれなる

あはれなるもよもよのたのむ可敷きいふもあはれなる
あはれなる

贈左大臣安房守一首

あまのついでにやうにふりしるはにのちかきけりふにのちかきけり
前用ひ及ぶと御の及ぶ

あまのついでにやうにふりしるはにのちかきけりふにのちかきけり
平權院の中一首

あまのついでにやうにふりしるはにのちかきけりふにのちかきけり
右大臣家三首の傍の一首

あまのついでにやうにふりしるはにのちかきけりふにのちかきけり
駿河の一首

あまのついでにやうにふりしるはにのちかきけりふにのちかきけり
彈正中親の一首

あまのついでにやうにふりしるはにのちかきけりふにのちかきけり
池の一首

あまのついでにやうにふりしるはにのちかきけりふにのちかきけり
らの方大納言の一首

あまのついでにやうにふりしるはにのちかきけりふにのちかきけり
西の一首

あまのついでにやうにふりしるはにのちかきけりふにのちかきけり
院の一首

あまのついでにやうにふりしるはにのちかきけりふにのちかきけり
あまのついでにやうにふりしるはにのちかきけりふにのちかきけり

あまのついでにやうにふりしるはにのちかきけりふにのちかきけり
あまのついでにやうにふりしるはにのちかきけりふにのちかきけり

花山院入道大納言の一首

青島のりんばいかなんか
野のりん

夏草のわらわらと
源大綱云歌詩の合夏期

夏草の志のりんばい
建武二年の内裏千そのわ夏桂也

一の葉のりんばい
國の御歌十首のわ夏草

夏草の志のりんばい
聖の夏草

夏草の志のりんばい
民のりんばい

夏草の志のりんばい
夏草のりん

夏草の志のりんばい
金蓮寺三首のりん

夏草の志のりんばい
茅指院贈友長歌のりん

夏草の志のりんばい
玉露や七瀬のりん

夏草の志のりんばい
前蘇大綱云歌詩のりん

夏草の志のりんばい
清子大綱言歌のりん

小倉山にありては花のさくらさくらとていふ
一冊に三首ありて傳文照射

夏木の花のさくらさくらとていふ
獨吟一首あり

花のさくらさくらとていふ
夏月

花のさくらさくらとていふ
夏月

花のさくらさくらとていふ
金葉一首あり

花のさくらさくらとていふ
夏月

西御歌

夏月
入道前大臣大行東三首と夏月

夏月
夏月

夏月
夏月

夏月
夏月

夏月
花山院中絶句一首あり

夏月
夏月

前用白也少くは指し夏夜

乃一草の力をせしむるも世にふるまはるるのしる
雨後夏月

夕らばはるの月を照らしむるも世にふるまはるるのしる
和歌前二首一葉

夏引るも世にふるまはるるのしる
江華院

伊勢の海入るもの世にふるまはるるのしる
古羽の貞親哥よ午指一葉

やぶらばはるの月を照らしむるも世にふるまはるるのしる
何れも葉

わが世にふるまはるるのしる
馬の御世のしる

海
彈平新の世にふるまはるるのしる

とせしむるの世にふるまはるるのしる
市子左大御の世にふるまはるるのしる

草用葉

海
陸奥の題氏世にふるまはるるのしる
あつたの世にふるまはるるのしる
一葉

あつたの世にふるまはるるのしる

入道前大臣大友三首集

この巻の初めは入道前大臣大友三首集の題名である。

夏草

夏草の生えわたる原野に
こころのつれづれをよめる
詩句の成る所を記す。夏草の生えわたる原野に、こころのつれづれをよめる、詩句の成る所を記す。

中権院入道朝臣大友三首集

野草

野草の生えわたる原野に
こころのつれづれをよめる
詩句の成る所を記す。野草の生えわたる原野に、こころのつれづれをよめる、詩句の成る所を記す。

中権院入道朝臣大友三首集

中権院入道朝臣大友三首集の題名である。

中権院入道朝臣大友三首集の題名である。

中権院入道朝臣大友三首集

中権院入道朝臣大友三首集の題名である。

中権院入道朝臣大友三首集の題名である。

中権院入道朝臣大友三首集の題名である。

中権院入道朝臣大友三首集

中権院入道朝臣大友三首集の題名である。

いづまをわづらふよふしつゝあはれなき御心なむ
夕立

山輝

やまのあつめしむる山輝の影に松のしづかに
あつめぬ影のうらやまのあつめぬ影のうらやま
夕輝

あつめぬ影のうらやまのあつめぬ影のうらやま
贈左大臣家三首納涼

あつめぬ影のうらやまのあつめぬ影のうらやま
宰相待所合小夕納涼

あつめぬ影のうらやまのあつめぬ影のうらやま
夏あか

あつめぬ影のうらやまのあつめぬ影のうらやま
らあひのあつめぬ影のうらやま

あつめぬ影のうらやまのあつめぬ影のうらやま
心もた大納言三首納涼夏月

あつめぬ影のうらやまのあつめぬ影のうらやま
お物院贈左大臣あつめぬ影のうらやま

あつめぬ影のうらやまのあつめぬ影のうらやま
右衛門佐和義朝あつめぬ影のうらやま

あつめぬ影のうらやまのあつめぬ影のうらやま
あつめぬ影のうらやまのあつめぬ影のうらやま

あつめぬ影のうらやまのあつめぬ影のうらやま
中納言あつめぬ影のうらやま

あはれなる御子の御心を御覧の御歌
二首に新の御歌十首

皇子大納言御歌十首

あはれなる御子の御心を御覧の御歌
贈る御歌十首

金葉歌十首

あはれなる御子の御心を御覧の御歌
皇子大納言御歌十首

あはれなる御子の御心を御覧の御歌
皇子大納言御歌十首

あはれなる御子の御心を御覧の御歌
皇子大納言御歌十首

河夏祇

あはれなる御子の御心を御覧の御歌
皇子大納言御歌十首

新の御歌十首

あはれなる御子の御心を御覧の御歌
皇子大納言御歌十首

皇子大納言御歌十首

あはれなる御子の御心を御覧の御歌
皇子大納言御歌十首

年去
應永七年春以頓河自筆
門至清第令寫之畢

三年物助

應永八年
九百八十四年



